

RIN

— 凜 —

いつまでも幸せな女性であるために

1.2



特集

太りにくい！ 病気になりにくい！

今日から始める「デブ菌」退治術

MEDICAL INFORMATION

「ほくろ除去」は慎重に……

皮膚がんの初期症状にご注意を

新連載！ 藤田先生の心と体が“腸”喜ぶおはなし

「人の命は腸が9割」

JANUARY & FEBRUARY

「ほくろ除去」は慎重に…… 皮膚がんの初期症状に ご注意を

「皮膚」というと、単に体の表面を覆っている「カバー」のように思われがちですが、実はこれもれっきとした「臓器」です。臓器であれば病気も起きるし、その中には悪性腫瘍、つまり「がん」もあります。高齢者に多い皮膚がん——。その特徴と見分け方について検証します。

取材・文 長田昭二 医療ジャーナリスト

見た目では判別不可能な ほくろと皮膚がん

皮膚がんについて学ぶとき、まず頭に入れておく必要があるのが「皮膚の構造」です。人間の皮膚は外側から、表皮、真皮、皮下組織の順に重なっています。

このうち表皮は0.2mmほどの薄い組織。表皮の中でも外側に近い方から角層、顆粒層、有棘層、基底層という層で構成されています。

真皮には皮脂腺や汗腺などの器官が存在します。この真皮も、外側から乳頭層、乳頭下層、網状層の3枚重ねになっていて、こちらは部位や年齢によって厚さが異なります。

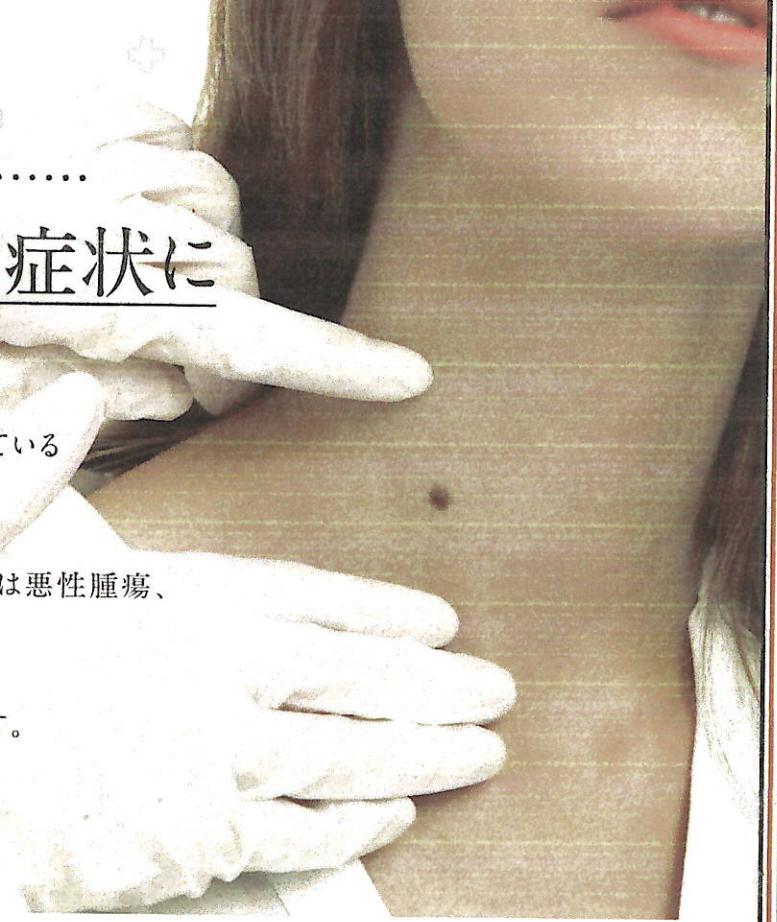
そして一番奥にある皮下組織は別名「皮下脂肪」とも呼ばれ、その名通り脂肪で構成される層です。ここも厚さは部位によつて、あるいは人によつて異なります。

まずは以上のことを理解した上で、皮膚がんに話を進めましょう。

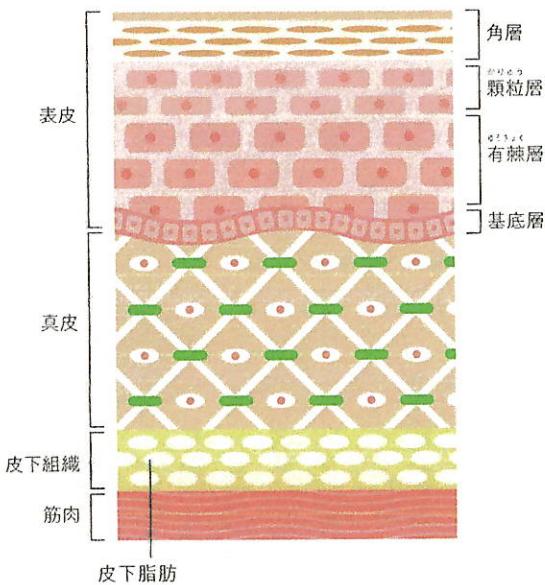
皮膚がんの一つに「メラノーマ（悪性黒色腫）」という病氣があります。これなどはまさにほくろのような形狀をしているので、間違えてしまいがちですが、やはりほくろとは別物です。

メラノーマは表皮の一番下の基底層にある「メラノサイト」という細胞が悪性化することによつて発生する悪性腫瘍なのです。

のがんに注意」という話を耳にしますが、実はこれ、正確ではありません。ほくろと皮膚がんは別物なのです。



〈人間の皮膚の構造〉



人間の皮膚は外側から、表皮、真皮、皮下組織の順に重なる構造になっています。このうち表皮の有棘層を構成する細胞から発生するがんが「有棘細胞がん」。表皮の基底層に分布しているメラノサイトが悪性化して起こるのが「メラノーマ」です。

この日光角化症の状態であれば、表面に広がっているだけなので、塗り薬での治療や、液体窒素で患部を凍らせ壊死させる治療法など、比較的侵襲（体の受けるダメージ）

しているだけでなく、皮膚自身を自分で保護する機能を併せ持っています。太陽光に晒される肌は、そのままでは紫外線の攻撃を受け続けることになります。紫外線は皮膚の細胞核のDNAを損傷するほどの威力を持つており、日光を浴び続けることは、皮膚にとて大変なダメージなのです。

そこで皮膚は、紫外線から身を守る手段を講じます。メラニンという色素です。メラニンは、皮膚

に入り込んできた紫外線を吸収して、皮膚がダメージを受けないよう防ぐ機能を持っています。そして、このメラニンを生成するのが、メラノサイトなのです。

一般的に「ほくろ」というのは俗称です。その中には、加齢に伴つて発生するシミや疣贅（いぼ）も含まれている可能性もありますが、いずれも皮膚がんとは無関係。つまり、「ほくろががんになる」ということではないのです。

皮膚がんの症状とは？

代表的な2つの皮膚がんについてお話ししましょう。

一つは「有棘細胞がん」。日本人に最も多い皮膚がんで、皮膚組織の一一番外側を構成する表皮の中の有棘層から発生します。有棘細胞がんはどこにでもできますが、一番多いのは高齢者の顔面にできるものです。これは、最初に「赤っぽいシミ」から始まります。この

シミは「日光角化症」という前がん状態であることが多く、若い頃に日にあたる時間の長かった人はリスクが高いことが分かっています。そのため、発生する部位も、顔や首、手の甲など「日に当たりやすい場所」が多いという特徴があります。

の小さな治療法もあります。

しかし、表皮を超えて真皮へと浸潤してしまうと、転移の危険性が出てきます。この場合、外科的に切除する必要性が生じてきます。

高齢者の顔面にできる、かゆみのない赤いシミは、日光角化症の可能性があります。放っておくと

「メラノーマ（悪性黒色腫）の特徴

非対称	形が左右非対称
輪郭がギザギザしている	皮膚とほくろの輪郭がギザギザして不整／色のにじみ出しがある
色むら	色調が均一でない／色むらがある
大きさ	長径が6mm以上
変化がある	大きさが拡大する、色・形・症状が変化していく

皮膚がんになるので、早い段階で皮膚科専門医を受診すべきです。

もう一つが、先ほど登場した「メラノーマ」。発生頻度は有棘細胞がんほど高くはないものの、転移の早さや悪性度ではこちらが勝ります。

このがんは、先ほど触れたメラニンを作り出す細胞（メラノサイト）ががん化して起きる病気。初期症状は黒いシミや、ほくろに似た黒い隆起が起きることもありますが、表面上は小さくても、タテ、つまり奥深くに進行していくことがあるので、見た目で判断す

るのは危険です。

以前はなかつたシミやほくろのような異変があり、短期間で形や色合いが変わっていくような場合は、早めの受診が必要です。

安易なほくろ除去で がんが転移する可能性も

皮膚科ではダーモスコープという専用の拡大鏡で観察し、がんの疑いがあれば、慎重に判断して組織検査を行い、必要に応じて高度な医療機関に紹介します。

切除後の組織検査で悪性か良性かが判るケースもありますが、少しでもがんの疑いがある場合は、

切除の後の対応がきちんとできるように手配して、慎重に治療が進められます。病变を分割して切除すると、それがきっかけで転移する危険性があります。切除するとときは安全性を考えて、なるべく一度に切除するようにします。

そこで注意したいのが、美容外科などで行う「ほくろ除去術」です。既に触れた通り、皮膚がんとほくろは別物ですが、皮膚がんのはとても危険なのです。

初期症状がほくろやシミに似ていることも事実です。患者や医師が

ほくろと決めつけて、がんの組織を傷付けたり、レーザーで焼灼したりすると、もしそれがメラノーマだった場合には転移させてしま

う危険性が出てくるのです。そうした形で他の臓器にがんが転移してから見つかり、後になって「原発がんは皮膚がんだった」と判明するケースも実際にあります。

ほくろと決めつけず
まずは受診を

ほくろを除去したい



皮膚科専門医を受診



皮膚がん

皮膚がん
ではない

皮膚がんの
専門医がいる
医療機関で
治療



教えてくださった方

永井弥生先生 (ながい やよい)

群馬県渋川市生まれ。山形大学医学部を卒業後、群馬大学医学部附属病院皮膚科入局。2011年同准教授、同医療人能力開発センター副センター長。13年同医療安全管理部副部長(14年から部長)、同男女共同参画推進室副室長。17年群馬大学大学院医学系研究科総合医療学准教授。18年オフィス風の道代表／利根中央病院皮膚科。医学博士。